

## はじめに

2023年度は全国的にコロナ禍もようやく落ち着き、大学や高校での教育も通常に近づいてまいりました。近年取り組むようになったオンラインの企画を継続実施するとともに、しばらく休止・制限していた対面のイベントを以前と同じ形で再開するなど、センターにとっても変化の多い1年となりました。特に夏休み期間に毎年開催している高校生対象の学術講義「学びの杜・学術コース」につきましては、3年ぶりに完全対面・所属校による参加制限無しで開催することができました。ご協力くださった関係者のみなさまに厚くお礼申し上げます。

本誌第Ⅰ部は、当センターの前センター長で現在教育学部附属中・高等学校校長の柴田好章先生による研究報告です。この研究は、三菱みらい育成財団の助成事業カテゴリ5で2023年に採択されたプログラム「探究的な学びを通じて個性的で自立的な生徒を育成する教師の洞察力と構想力の育成」として実施されました。

第Ⅱ部には、2024年2月2日に開催された座談会、シリーズ「テストと入試をめぐる座談・快談」第2回の要約を掲載しました。この座談会では「『探究的な学び』と高大接続 —探究的な学習の成果は大学入学者選抜・大学教育にどう生かされるか—」をテーマに高校教諭，大学入試担当事務職員，大学教員の3名が話題提供をし，当センター研究員の大谷尚先生，大塚雄作先生，松下晴彦先生，村上隆先生からコメントをいただきました。

第Ⅲ部には、昨年度に引き続き「学びの杜・学術コース」の講義をひとつ、テープ起こし・再構成して掲載しました。講師の大谷尚先生が「質的研究とは何か」をテーマに，大学レベルの本格的な内容を高校生にもわかりやすく解説しています。

2024年度も引き続き，高大接続研究にいっそう貢献できるセンターとして発展させていきたいと考えています。どうぞよろしく願いいたします。

高大接続研究センター長  
教育発達科学研究科副研究科長・教授  
中谷素之